

学校の研修旅行で2月9日から12日までバルト海に面した東欧の国ポーランドのグダンスクに行って参りました。たくさんの新たな知識を得て、新しい方々とも交流することができて大変貴重な研修旅行となりました。

1日目は、到着した後、先生のガイドと共に街を散策しました。グダンスクは街並みがとても美しく、建物はピンクや水色、金色などかわいらしい色彩で細かい彫刻が彫っており、街を歩いているだけで楽しい気分になりました。特に街の中心にある Clock Tower と Neptune Fountain は美しかったです。2日目は、ポーランドで最新の WWII ミュージアムをじっくり2時間ほど見てまわりました。ポーランドだけではなく、WWII 全体の展示で悲惨な写真や映像が衝撃的でした。知識だけではなく、戦争の悲惨な状況が心の奥に突きさりました。その背景知識があったので午後の Solidarity Center も夢中になってまわりました。Solidarity とはポーランドが社会主義のソ連の支配から逃れるために結束して戦ったことを意味しています。小さい造船所のストライキからどのようにその運動が広まり、どうやって人々が戦ったかがよくわかりました。3日目は、Stutthof 収容所の見学に行きました。収容所の話は、過去に何回も授業で聞いたことがありそのたびに衝撃を受けていましたが、実際にその現場に行くということは全く異なったもので、比べ物にならないほどのショックを受けました。Death Gate と呼ばれる鉄線のゲート、ガス室、焼却炉、ベッドや洗面所は収容人数に比べて大変狭く、収容所の中での生活は人間の生活とは程遠いものでした。一番印象に残ったのは、収容所の人々の靴の山です。子供の小さい靴もたくさんあり、心が痛む展示でした。最終日は、ショッピングをしたり、港に行ったりしてのんびりと過ごしました。

日本の高校の修学旅行との違いで驚いたことは、自由行動の多さです。日中は生徒たちで街のレストランで自由に食事をしたり、夜は11時まで地元のパブで団らんしたりしました。生徒たちだけで地元のカルチャーに触れてきなさいと言われたことに驚きましたが、自由な分自律した精神と自分の行動に責任を持つことが大事だということを学びました。女子は私も入れて2人でしたが、同じ学年の友人たちと街を探検でき、大変充実した4日間を過ごせました。私は世界史を選択しているので、この研修旅行を通じて、ポーランドが、WWII で重要な役割を果たした国であることがよくわかり、WWII の全体像を把握することにも繋がりました。またそれ以上にポーランドを満喫し友人たちと楽しく過ごすことができ、今後学校でもお互い切磋琢磨しながら過ごしていこうという活力も湧いてきています。このように有意義な4日間を支援していただき本当にありがとうございました。